

「いのちをいただく」

今年の3月頃からでしょうか。テレビのコマーシャルで岐阜県飛騨地方の山々や畑、子供たちが遊ぶ姿などの映像が流れ、その映像に合わせてひとりのおばあちゃんが「畑を耕せばミミズも出るし、葉っぱに虫もつくわなあ、おらたち人間は、自然からいのちをいただいております」と締めくくり、合掌した手の映像が出てきます。

皆さんも一度はご覧になったことがあるでしょう。普段は何も考えることなくコマーシャルを見ていますが、初めてこのコマーシャルを見た時、自分自身に「お前は果たしてどうなんだ。日々、自然からいのちをいただいていることに本当に感謝しているのか」と問いかけていました。

日々仕事に追われているサラリーマン、小さな子供からお年寄りに至るまであらゆる人々へのメッセージです。学校や家庭、外での食事でもそうですが、食前には「いただきます」、食後には「ごちそうさまでした」と手を合わせます。このことは幼稚園、保育園に入園する前から各家庭で行っていることですが、中には、なぜ、「いただきますと言わなければならないのか」「感謝しなくてはいけないのか」と言われる親御さんもいらっしやると聞いたことがあります。

子供の頃の「いただきます」や「ごちそうさまでした」という言葉の中には、「いのちあるものをいただいている」「感謝する」という意識はないかもしれませんが、大人になるにつれ、その意味もわかってくることでしょう。

いのちあるものをいただき、今日も一日私たちが生きていける。生かさせていただいているのです。決してお金を払えば食事ができる、感謝しなくていいということではないのです。日常生活の基本的なことですが、自分自身も忘れないよう、また、我が家の子供たちにも後々わかってもらえるよう、日々の生活を送らねばならないと、改めて感じさせられた瞬間でした。